

令和5年度 MieMu の活動と運営の外部評価概要

1. 外部評価における評価の結果・概要

(1)「戦略目標 三重の魅力を知ってもらう A-1(調査)」の各戦術について

ア)「戦術1」…達成度4

研究成果公表数が目標(13 回)を上回る 20 回であるため達成度を「4」とした。研究活動は、博物館の根幹であるので意識的に研究活動を充実させていく工夫をしていただきたい。

イ)「戦術2」…達成度2

資料データベースの閲覧回数は、県庁の集計システムが変更となりページビュー数のみしか集計できなくなった。資料データベースの閲覧回数を別の方法で計測したところ、目標(5,000 回)を下回る 1,896 回であった。ページビュー数は増加傾向、資料登録の実績(6,099点)は過去最多ではあったが、資料データベースの閲覧回数の実績が令和2年度から減少傾向であるため達成度を「2」とした。

ウ)「戦術3」…達成度4

資料の保存・継承では、定期清掃、点検を実施した結果、虫害の発生件数が「0」となり達成度を「4」とした。

◎「戦略目標 三重の魅力を知ってもらう A-1(調査)」について…達成度4

戦略1の達成状況については、①研究成果公表数は、一定数行えた、②資料登録数は過去最高の実績値であった、③収蔵庫の定期点検を通じて良好な状態を維持できたことは、博物館の基礎的活動として大いに評価できるため達成度を「4」とした。

(2)「戦略目標 三重の魅力を知ってもらう A-2(展示)」の各戦術について

ア)「戦術4」…達成度4

基本展示では、観覧者数(52,996 人)は目標(51,300 人)を上回った。達成率は 103.3%であるが人数換算すると1,692人増となるため「4」と評価する。観覧者増に向けて特別企画を実施したことは評価できる。

イ)「戦術5」…達成度2

移動展示を含めた企画展示では、活動目標(3回)を上回る4回開催したが観覧者数(61,310 人)は目標(61,700 人)を下回る結果となったため達成度を「2」とした。

◎「戦略目標 三重の魅力を知ってもらう A-2(展示)」について…達成度4

展示に関する戦略2では、基本展示と企画展示の全体を通じた満足度平均(76.3%)が目標(70%)を上回り、達成度を「4」とした。

(3)「戦略目標 三重の魅力を知ってもらう A-3(展示)」の各戦術について

ア)「戦術6」…達成度2

移動展示においては、戦術目標の趣旨から考えると参加型調査の結果をフィードバックしたことは成果と考える。その数を展示観覧者数の中に含めてもよいのではないか。観察会やギャラリートーク等の関連イベント参加者数も同様である。合計すると 2,363 人となり達成率は 88%となるため「2」と評価する。これらの数は学芸員が努力した結果である。

イ)「戦術7」…達成度4

地域の魅力を伝えることを目的とした学芸員による出張講座では、活動実績(20 回)や利用者数(2,723 人)は目標(13 回、1,120 回)を上回り、達成度を「4」とした。

◎「戦略目標 三重の魅力を知ってもらう A-3(展示)」について…達成度4

地域への愛着を育くむための戦略3では、学芸員講座と移動展示の満足度平均(81.4%)が目標(75%)を上回り、達成度を「4」とした。

(4)「戦略目標 館を利用してもらう B-4(展示)」の各戦術について

ア)「戦術8」…達成度4

ミュージアムパートナーについては、登録者数(139 組 266 名)や活動回数(146 回)は減少傾向にある。ただ、利用者の目標(1,700 人)を上回る 1,799 人の参加があったため達成度を「4」とした。10 代以下の新規加入者の多いことは評価できる。

イ)「戦術9」…達成度2

令和4年度と同じくコーポレーション・デーを2回実施したが、入館者数目標(5,000 人)を下回り、達成度を「2」とした

ウ)「戦術10」…達成度4

研究機関等との連携では、5団体と連携することができた。利用者数(433 人)は目標(240 人)を上回り、達成度を「4」とした。

◎「戦略目標 館を利用してもらう B-4(展示)」について…達成度4

県民・利用者の参画に係わる戦略 4 では、連携先団体8件のうち7件から「4. 満足」の結果(87.5%)を得ることができた。達成度を「4」とした。

(5)「戦略目標 館を利用してもらう B-5(経営)」の各戦術について

ア)「戦術11」…達成度2

HP や情報誌を通じた県民への情報提供では、「MieMu@ほーむ」のアクセス数(3,537 回)は目標(4,800 回)を大きく下回った。「目新しさが無くなってきている」「更新回数の減少」が原因と思われる。しかし、ここ数年三重県総合博物館では、SNS を使った情報発信に労力をかけており、中でも YouTube の動画再生回数は年々増加傾向にある。YouTube の取組を評価して達成度を「2」とした。

SNS の取組は非常に評価できる一方、その結果が現状の評価指標に反映されないことに矛盾を感じる。

イ)「戦術12」…達成度4

「調べ方」を学ぶ事業は、学芸員との対面事業を中心に7事業 14 回実施し、目標(160 人)を上回る利用者数(269 人)を確保できたことから達成度を「4」とした。

◎「戦略目標 館を利用してもらう B-5(経営)」について…達成度2

学芸員が知的資源やその活用方法を伝える戦略5は、「県政 e モニター」事業の成果を通じて評価を行ってきた。「HP について知りたい情報が見つけやすくなっているかどうか」の設問に対して「見つけやすい」と回答した割合が 65.0%であり、目標(75%)を下回ったため達成度を「2」とした。

しかし、戦略目標の評価指標を e モニターによる「HP についての情報の見つけやすさ」だけの結果で判断することに違和感がある。学芸員が来館者対応として行っているレファレンス等も「目的の情報の見つけやすさ、得られやすさ」に含まれるのではないか。

評価指標を「HP に関する『e モニター』結果」だけでなく、利用者が「目的の情報を得る」ために学芸員が日常取組まれていることも反映できるように設定、検討すべきであった。

(6)「戦略目標 館を利用してもらう B-6(展示)」の各戦術について

ア)「戦術13」…達成度4

「こども体験展示室」は、目標(22,500 人)を大幅に上回る年間利用者32,345 人があり達成度を「4」とした。数値的にみれば他事業と比較しても突出した結果となっており、令和5年度の中でも特に評価できる戦術である。

イ)「戦術14」…達成度4

子どもたちが五感を使って体感できる事業は、9事業 25 回実施し、目標(1,200 人)を上回る参加者(1,309 人)を得たことから達成度を「4」とした。

ウ)「戦術15」…達成度2

学校と連携した課題探究型学習の支援では、2年続けて目標(1,500 人)を下回る結果となり、達成度を「2」とした。ただ、学習支援回数(R4:13 日→R5:20)が令和4 年度に比べて増加していることは評価できる。学校は、地域の研究機関との連携を求めていると思われるので学校との連携方法を見直していただきたい。また、三重県総合博物館から離れている地域ほど需要があるように感じるので頑張ってほしい。

大学生への対応については、戦術目標に「子どもたちが…」と記載されているので、今回の支援生徒数値には含まれていないと思うが、今後は含んでもよいと考える。

◎「戦略目標 館を利用してもらう B-6(展示)」について…達成度4

次世代の育成を目標とした子どもたちの学習機会の充実(戦略 6)は、29 事業の参加者アンケート(848 件)の内、19 歳以下(177 件)の満足度を調べた結果、85.9%(152 件)が「4. 満足」であったことから達成度を「4」とした。

次世代育成の観点から大学生を対象とした「博物館実習」を学習機会として捉えてもよいと考える。

(7)「戦略目標 館を利用してもらう B-7(経営)」の戦術について

ア)「戦術16」…達成度4

業務の改善に向けた定期的な進捗管理は、四半期ごとの全体会議を通じて「抽出・共有した課題 10 件と外部評価での改善指摘 11 件」について、その改善策の検討と進捗管理ができた。戦術目標(7件)を上回ったため達成度を「4」とした。

◎「戦略目標 館を利用してもらう B-7(経営)」について…達成度4

戦略7は、上記の課題(10+11=21 件)のうち、18 件について改善が図られたことから「4」と評価する。

(8)「ビジョン」について…達成度2

「県政 e モニター」事業の成果を通じて4年間評価を行ってきたが、令和5年度から県政 e モニター制度の仕組み自体が変更となり、モニター対象者も以前と異なっている。

「三重県には歴史的資産等があり、愛着を感じることができる」という設問と評価指標が合致していないように思えたため「そう思う」「どちらかといえばそう思う」をあわせて評価した。

4 年間の平均結果が目標(75%)を下回る 68.5%となったため「2」と評価する。

(9)「R2年度から R5年度までの4年間の作戦目的(中間アウトカム)」…達成度3

「ビジョン」と同じく「県政 e モニター」事業の成果を通じて4年間評価を行ってきた。「博物館事業が三重の魅力を知ることによってどれだけ役立ったか」を測る指標と理解した。

県政 e モニターの設問回答例にある「行ったことがないので分からない」を含めると評価指標の主旨と齟齬が生まれるので除外して評価を行った。

「感じた」と回答した割合が目標(75%)を上回る 78%であった。しかし、アンケートから「MieMu に行ったことがない人」が 42.7%を占めており「新規来館者への周知」が課題として残っていることが明らかとなったため「3」と評価した。

「行ったことがない人」の割合は「MieMu の現在地」を示している。令和2～令和5年度にかけて 39.2%～45.3%占めていた事実を外部評価として付記する。

【提言(検討事項)】

○戦術1 調査研究成果の公表

- ・ 活字になったものだけを研究成果公表数としてカウントせずに、「公開講座」や「学芸員講座」、館外活動であっても学芸員が行った「講演会」「研究発表」も研究活動の成果になると考える。「学生たちからの研究相談」「博物館実習」も研究活動の一環として行っているため、研究成果公表数に含まれるのではないかな。

○戦術2 資料データベースの閲覧回数

- ・ 「資料利用」とはデータベースの閲覧回数だけではないと考える。何を根拠にしてカウントしていくのか考えていただきたい。

- ・少子高齢化の中で「資料の受入」は重要な事業となる。新規資料の受入数も評価項目に入れてもよいのではないかな。

○戦術3 資料の保存・継承

- ・「三重県全体の文化を守る」という観点から、現在他館に対して行っている保存環境に関する指導回数を評価指標に反映されるように考えていただきたい。

○戦術6 移動展示

- ・来館者数だけでなく関連イベント参加者数、参加型調査のフィードバック数も含めて評価してもよいのではないかな。
- ・関連イベント参加者数については、申込者数を踏まえた上で「健闘した」「そうでなかった」等を分析していただきたい。

○戦術11 情報提供

- ・SNS の更新回数等の取組、特に YouTube の再生回数や登録者数を評価指標に反映できないかな。
- ・SNS 世代の来館者の動向が紙媒体のアンケート結果に反映しきれていないかもしれない。「ライン」や「グーグルフォーム」形式のアンケートを作成してもよいと考える。

○戦術5 学芸員が知的資源やその活用方法を伝える

- ・利用者が「目的の情報がえられた」を評価する指標は HP だけだろうか、他に含めてもよいものはないのだろうか。議論していただきたい。

○戦術15 課題探究学習の支援 ・ 戦術6 次世代の育成を目標とした子どもたちの学習機会の充実

- ・大学生や博物館実習生への対応を含めてよいのではないかな。

○ビジョン・令和2年度～令和5年度までの4年間の作戦目的(中間アウトカム)

- ・県政 e モニターを使ってアンケート結果を取得する場合は、設問と評価指標が合致するかどうかの検討が必要である。
- ・設問内容を一般の方に伝わりやすく、意見をいただきやすい文言を使用できるように県庁の方と話し合えるとよい。「愛着」ということばを使った設問は回答しづらいように思えた。
- ・内部評価では、対象となる一つの質問のみで結果を分析するのではなく、全体の中での対象質問の位置づけを考えた上で分析してほしい。

別表 達成度の推移(2020～2024 年度)

戦略	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	戦術	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
戦略1 (01)(A)	3	3	4	4	戦術1	4	4	4	4
					戦術2	4	4	4	2
					戦術3	2	2	4	4
戦略2 (01)(02) (03)(A)	3	4	3	4	戦術4	3	4	2	4
					戦術5	3	2	2	2
戦略3 (03)(A)	-	4	4	4	戦術6	-	4	-	2
					戦術7	4	4	4	4
戦略4 (02)(B)	-	2	4	4	戦術8	3	4	4	4
					戦術9	2	1	4	2
					戦術10	4	4	4	4
戦略5 (02)(B)	2	2	-	2	戦術11	4	4	4	2
					戦術12	2	4	4	4
戦略6 (02)(B)	3	4	4	4	戦術13	-	1	4	4
					戦術14	2	2	4	4
					戦術15	4	4	2	2
戦略7 (業務改善)	2	2	4	4	戦術16	3	3	4	4
合計	13	21	23	26		44	51	54	52
百分比(※)	65%	75%	96%	93%		79%	80%	90%	81%
「4」の個数	0	3	5	6		6	10	12	10
「3」の個数	3	1	1	0		4	1	0	0
「2」の個数	2	3	0	1		4	3	3	6
「1」の個数	0	0	0	0		0	2	0	0
「-」の個数	2	0	1	0		2	0	1	0
2020～2023 年度									
ビジョン								2	
令和2～令和5年度までの4年間の作戦目的(中間アウトカム)								3	

「-」は評価不能。

※は、評価不能を除く全項目の評定が達成度「4」であった場合を100%とした際の達成割合